

卒業生の意見を本学の教育・研究の改善に繋げるためのアンケートについて

卒業生の皆様から頂いた貴重なご意見ご提案を踏まえて、広島大学の教育・研究、大学運営の充実に向けた取組を行うとともに、更なる改善に向けた検討を行っています。

1. 大学生生活全般について

本学では、大学生生活全般において学生一人一人が社会で通用する基礎力及び実践的応用力を身につけることの重要性を認識しております。

そのための具体的方策として、学生の自発的活動を尊重することを目的とし、授業等の改善、海外留学の推進、地域活動、課外活動及びボランティア活動への支援を行っています。

2. 教養教育について

教養教育では「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教育理念の下、急速に変化する社会情勢や国際情勢にも十分配慮しつつ、継続的な見直し、改革を実行してきました。2018年度からは、上記理念に加え、「自ら主体的に考え、問題を発見し、解決する能力を涵養すること」、「グローバルな視野に立ち、国内外で活躍するための能力を涵養すること」を目的としたカリキュラムを実施しています。

全学部必修科目である「大学教育入門」で、各界の著名人による講演「世界に羽ばたく。教養の力」を実施しているほか、「社会連携科目」では、官公庁や民間機関等の現職の方による授業を展開するなど、社会で活躍されている方々の経験や考え方に触れる機会を提供することで、大学生活及び将来の職業等を考える上での動機づけを高めております。

また、グローバル化の進展に伴い、例年、英語をはじめとする外国語科目に対するご意見等が多く寄せられていますが、本学では、到達目標型教育の一環として TOEIC(R) L&R IP テストを 2004 年度から全学一斉実施により行っているほか、英語で実施する教養教育科目の充実も図っています。加えて、外国語科目（英語以外の初修外国語も含む）については、学内での授業以外にも、本学の海外協定校が提供する語学研修プログラムに参加し、一定の条件を満たすことで単位認定できる制度もあり、学外でより実践的な教育を受けることも可能です。

さらに、本学の理念の一つである「平和を希求する精神」に基づき、平和教育にも力を入れており、全学部必修科目として「平和科目」を開講しています。同科目は本学の教養教育の特徴の一つでもあり、多様な観点から平和を学ぶ機会を提供するものです。平和について考えることを通じて豊かな人間性を涵養するため、科目の充実や教育内容の見直しを継続的に行っております。

2021 年度からは、全学生が「AI 戦略 2019」で目標とされているレベルの能力を習得できるよう「情報・データサイエンス科目」の全学必修化を行いました。この取組は文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されています。

一方、新規採用教員及び新規に教養教育の授業を担当する教員らが上記の目的や取組み

を十分理解した上で授業を提供できるよう研修会や教員間の授業参観も定期的に開催しており、教員及び授業の質向上に取り組んでおります。

2018年度の改革から4年が経過し、また、その間に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により学習方法や大学の在り方は変容しています。引き続き、本学では学生の意見も取り入れながら、更なる教養教育の充実を図って参ります。

3. 専門教育について

幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことの出来る人材育成のための主な取組として、学士課程教育においては、次のことを行っています。

- (1) 到達目標型教育を実現するための教育プログラムの実施・検証・改善
- (2) 問題発見解決能力向上のため教育（PBL 教育）
- (3) 卒業時における外国語運用能力向上のため全在学期間にわたって TOEIC(R) L&R IP テストを実施（グローバル化社会に向けての対応）
- (4) 体系的な分析手法や情報処理技術に関し、学問領域に応じたデータサイエンス/インフォマティクス教育（情報科学パッケージ科目）
- (5) 「学生による授業改善アンケート」を実施

専門外の分野を学ぶこと、自分の興味に応じた学修の重要性に関するご意見をいただきました。本学では「到達目標型教育プログラム（HiPROSPECTS）」の一環として、他の主専攻プログラムの基礎・概要等の学習を目的とした「副専攻プログラム」、特定のテーマの学習または資格取得を目的とした「特定プログラム」を整備しており、語学（英語・外国語）やアクセシビリティ、ダイバーシティなど、学生の多様な学習意欲に対応したプログラムを準備しています。

また、特に実務の面で、情報系の科目を学んでおけばよかったというご意見もありました。現在、政府において「数理・データサイエンス・AI 教育」が展開されており、本学では、教養教育の「情報・データサイエンス科目」を全学必修化したほか、2021年度に「AI・データサイエンス応用基礎特定プログラム」を開設しました。希望する学生には、教養での基礎の上に、データ分析やプログラミング等の応用的な知識を学ぶことができるようになっていきます。

卒業後の進路や将来のキャリアを見据えて、これらのプログラムを早い段階から活用してもらえるように、引き続き検証・改善と周知を図っていきたくと考えています。

4. 学生支援について

本学の学生が、入学から卒業まであらゆる面で充実した学生生活を送れるよう、きめ細かな学生生活のサポートを行っています。

学生情報の森「もみじ」は、パソコンの利用を前提としたシステムでしたが、近年、パソコンよりスマートフォンからの「もみじ」へのアクセス数が上回っていたことから、2018年度にスマートフォン対応をしました。

学生情報の森「もみじ」は、入学から卒業まで常時使用される修学に必要なシス

テムであり、今後も学生の皆様のニーズに併せてさらに充実したものに整備していきます。

学生対応・支援で最も評価が高い項目は、「5.課外活動（サークル）」（79.6%）となりました。今後も課外活動施設の維持管理や助成物品の支給など、更なる充実に努めていきます。ボランティア活動についても、東広島市内各所で行うボランティアに係る交通費は大学で負担する制度を設け学生の負担を軽減するとともに、学生が積極的に参加できるよう情報提供に努めています。

経済支援については、授業料免除や奨学金が受けられてよかったという声が多く寄せられています。本学では、経済支援制度として授業料免除、入学料免除・徴収猶予制度などを実施しています。さらに、広島大学独自の給付奨学制度として、2008年度から「フェニックス奨学制度」、2017年度からは在学生（3年次生から）を対象とした給付型奨学制度である「光り輝く奨学制度」をそれぞれ実施し、学力が優秀でありながら経済的理由により大学進学や就学が困難な学生を支援する制度を充実させています。

また、2020年度より給付型奨学金と授業料減免制度が一体となった高等教育の修学支援新制度が導入されており、本学も同制度の対象機関として、更に充実した経済支援を行っております。

これらの制度については、広島大学ホームページ（学生情報の森「もみじ」→学生生活のサポート→経済支援）において情報を提供しており、オープンキャンパス等でも周知していますが、今後その他に有効な周知手段があった場合は、周知方法に追加することといたします。

さらに、本学では、人生経験豊富ななんでも相談員が対応する「学生のためのなんでも相談窓口」やピアサポートルームが行っている「学生による学生のためのなんでも相談」において、随時相談を受け付けています。新型コロナウイルス感染症の影響により授業形態が変化した（オンライン授業の導入）ことから、自身の学習ペースがつかめない、親しい友人を作るタイミングがないなど、孤独や不安、悩みなどを抱えている学生は少なからずいると思います。不安や悩みの内容に関わらず、どこに相談したらよいかわからず困っている学生のためにも、これらの相談窓口があること、気軽に相談してほしいことを、今後も広く学生のみなさんにお知らせしていきたいと思っております。

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。